

2018（平成30）年度
相愛大学大学院
音楽研究科 音楽専攻
修士課程

学生募集要項

Soai University Graduate School
OSAKA

目 次

1. 教育研究上の理念・目的及び3つのポリシー	p. 1
2. 入学試験等について	
① 出願資格	p. 3
② 入学定員	p. 3
③ 入試日程・試験会場	p. 4
④ 試験時間割	p. 4
⑤ 試験科目と判定方法	p. 5
⑥ 試験内容	p. 5
⑦ 専門試験実技課題及び演奏技能適性検査	p. 6
⑧ 受験上の諸注意について	p. 6
⑨ 合否発表	p. 6
3. 出願手続	
① 出願期間	p. 7
② 入学検定料の納入方法	p. 7
③ 出願書類	p. 7
④ 出願先	p. 7
⑤ その他	p. 8
4. 入学手続締切日及び学費・諸経費	
① 学費・諸経費	p. 8
② 入学手続締切日	p. 8
③ 個人成績の開示について	p. 9
④ サンプル問題の提供について	p. 9
5. カリキュラムについて	
① カリキュラム	p. 10
② 修了要件及び履修方法等	p. 11
③ 履修モデル	p. 11
6. 音楽研究科 音楽専攻 修士課程 指導教員	p. 13
7. お問い合わせ	p. 13

1. 教育研究上の理念・目的及び3つのポリシー

* 教育研究上の理念

相愛大学は大乗仏教経典『仏説無量寿経』に示された「當相敬愛」の精神、すなわち「他者を敬い愛するこころの徳」を建学の精神とし、音楽教育において明治末期より今日に至るまで、高度な音楽的技術の修得にとどまらず、宗教的情操を備え、感性豊かで優れた音楽家、音楽教育者、音楽研究者ならびに音楽文化と産業の振興に貢献できる人材を育成してきた。

相愛大学大学院音楽研究科では、この理念を継承しつつ、その真髓を究めるために、さらに高度な演奏技能・創作能力・研究能力を養い、同時にその技能・能力・知識を発揮するための教養を涵養し、多様性を帯びてきている音楽の諸相に対応し得る見識を養うことによって、音楽を幅広く総合的に捉えるための深い学識を授けることを教育研究上の理念とする。

* 教育研究上の目的

クラシック音楽について高度で深遠な技能と学識を有し、加えてその能力を活用し得る企画力と実践力を修得した高度の専門的職業人の養成を通して、社会的要請に即した国内外の芸術文化の進展に寄与することを目的とする。

* アドミッションポリシー（入学者受入方針）

相愛大学大学院音楽研究科は、音楽文化の水準を進展するための深遠な学識を究め、卓越した能力を持つ演奏家、作曲家、音楽研究家をめざすとともに、クラシック音楽に求められる多様な社会的要請に対応する意欲を持つ人材を受け入れる。

- 1) 音楽専攻声楽領域の履修を希望する場合は、入学選抜時に以下のことが確認された者に対して入学を許可する。声楽を主として音楽文化に貢献するために必要な知識と技能を有し、オペラ、歌曲など声楽のさらなる表現の探求に強い意志があること。
- 2) 音楽専攻鍵盤領域の履修を希望する場合は、入学選抜時に以下のことが確認された者に対して入学を許可する。鍵盤楽器を主として音楽文化に貢献するために必要な知識と技能を有し、ピアノを中心としてさらなる表現の探求に強い意志があること。
- 3) 音楽専攻器楽領域の履修を希望する場合は、入学選抜時に以下のことが確認された者に対して入学を許可する。器楽（管楽器、弦楽器、打楽器）を主として音楽文化に貢献するために必要な知識と技能を有し、オーケストラや室内楽、独奏などにおいてさらなる表現の探求に強い意志があること。
- 4) 音楽専攻作曲領域の履修を希望する場合は、入学選抜時に以下のことが確認された者に対して入学を許可する。作曲を通じて音楽文化に貢献する強い意志があり、新たな技術と表現を探求するために必要な素質と知識があること。
- 5) 音楽専攻音楽学領域の履修を希望する場合は、入学選抜時に以下のことが確認された者に対して入学を許可する。音楽研究家として音楽文化に貢献する強い意志があり、研究を進めるために必要な音楽史的見地と学術的考察力があること。

* カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施方針）

相愛大学大学院音楽研究科は、優れた演奏技能・創作能力・研究能力を有する演奏家、作曲家、音楽研究家であると同時に、その能力を活用する高度の専門性と応用力によって音楽文化の水準を維持・向上させ、加えて創意工夫を凝らした独創的且つ自立的な音楽活動並びに芸術文化を牽引できる人材の育成をめざし、課程に共通した授業科目及び学生個々の専門領域に応じた授業科目によって教育課程を編成し実施する。また、修士演奏、修士作品、修士論文制作のために必要な研究指導を行う。

* ディプロマポリシー（学位授与方針）

本学大学院に2年以上在籍して所定の授業科目30単位以上を修得し、且つ以下に示す能力を身に付け、研究の成果の審査及び試験に合格した学生に対して修士（音楽）の学位を授与する。

- 1) クラシック音楽の高度で深遠な技能や学識
- 2) クラシック音楽の専門性を活かした自立的音楽活動を展開する能力
- 3) 音楽の専門的表現を用いて芸術文化を牽引できる能力
- 4) 音楽におけるさまざまな領域の相互関連を理解し、多様な音楽的価値観に共感できる能力

2. 入学試験等について

① 出願資格

音楽研究科音楽専攻（修士課程）への出願資格は、以下の各号の何れかに該当した者

- 1) 学校教育法第 83 条に規定する大学を卒業した者、又は 2018 年 3 月末日までに大学を卒業見込みの者
- 2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者、又は 2018 年 3 月末日までに学士の学位を授与される見込みの者
- 3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者、又は 2018 年 3 月末日までに修了見込みの者
- 4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者、又は 2018 年 3 月末日までに修了見込みの者
- 5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者、又は 2018 年 3 月末日までに修了見込みの者
- 6) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者、又は 2018 年 3 月末日までに修了見込みの者
- 7) 文部科学大臣が指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）
- 8) *2018 年 3 月末日で大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと、本学において認めた者
- 9) *本学において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、本学入学前（2018 年 4 月 1 日）までに 22 歳に達する者

※出願資格 8) 9) にて出願する場合は、事前に入学資格認定審査を行いますので、下記期日に書類提出が間に合うように、必ず入試課までご相談ください。
状況をうかがった上で、申請に必要な書類等を提示します。

【入学資格認定審査申請書類締切日】

前期：2017 年 9 月 11 日（月）16：00 まで

後期：2018 年 1 月 22 日（月）16：00 まで

② 入学定員

試験	専攻名	領域	募集人員	入学定員
前期選抜試験	音楽専攻	声楽／鍵盤*／器楽（管楽器**・弦楽器***・打楽器）／作曲／音楽学	6 名	8 名
後期選抜試験			2 名	

* 鍵盤領域はピアノ

** 器楽領域（管楽器）はフルート、サクソフォン、トランペット

*** 器楽領域（弦楽器）はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロを専門とする学生を受け入れます。

※その他の楽器を専門とする学生は「2-⑥-5）」（p.6）を参照の上、本学入試課までお問い合わせください。なお、その他の楽器の種別につきましては、別添「演奏技能適性検査課題」を参照してください。

③ 入試日程・試験会場

試験	試験科目	試験日程	試験会場
前期選抜試験	専門試験、口頭試問 外国語試験、西洋音楽史 演奏技能適性検査*	2017年10月22日(日) ・23日(月)・24日(火)	相愛大学 南港学舎
後期選抜試験		2018年3月1日(木)・2日(金)	

※音楽学を研究領域とし、研究に実演を伴う場合、上記以外に、演奏技能が研究の遂行に資するか否かを判定する「適性検査」を実施します。

④ 試験時間割

専門試験の集合時刻の詳細については、受験票送付時にお知らせします。

【前期】

2017年10月22日(日) -1日目-

研究領域 時間	声楽	鍵盤	器楽	作曲	音楽学
9:30~10:30	西洋音楽史				
10:50~11:50	外国語(英語)				

2017年10月23日(月) -2日目-

研究領域 時間	声楽	鍵盤	器楽 (フルートを除く)	作曲	音楽学
10:00~	専門試験				小論文(～11:30) 口頭試問 演奏技能適性検査*
11:00~					
専門試験終了後					

*音楽学領域を志望し、研究に実演を伴うことが明確である学生に限り実施します。

2017年10月24日(火) -3日目-

研究領域 時間	声楽	鍵盤	器楽 (フルートのみ)	作曲	音楽学
11:00~	専門試験		口頭試問		
専門試験終了後					

【後期】

2018年3月1日（木）－1日目－

研究領域 時間	声乐	鍵盤	器楽	作曲	音楽学
10:00～	専門試験				小論文（～11:30）
11:00～					演奏技能適性検査*

*音楽学領域を志望し、研究に実演を伴うことが明確である学生に限り実施します。

2018年3月2日（金）－2日目－

研究領域 時間	声乐	鍵盤	器楽	作曲	音楽学
9:30～10:30	西洋音楽史				
10:50～11:50	外国語（英語）				
13:00～	口頭試問				

⑤ 試験科目と判定方法

専門試験	研究計画及び口頭試問	外国語（英語）試験	西洋音楽史	合計
300点	100点	100点	100点	600点

- 1) 各領域とも専門試験を重視し、他の試験科目も含めて総合的に判定します。
- 2) 音楽学を研究領域とし、研究に実演を伴う場合、上記試験科目による判定で合格となっても、演奏技能適性検査で「不適合」と評価されれば「不合格」と判定されます。

⑥ 試験内容

- 1) 専門試験
声乐、鍵盤、器楽領域を志望する者には演奏実技試験、作曲領域を志望する者には作曲実技試験、音楽学領域を志望する者には小論文試験を課す。
専門試験の実技課題は、別添「専門試験実技等課題」を参照してください。
- 2) 研究計画（出願時に所定の書式により提出）及び口頭試問
あらかじめ提出された研究計画について試問する。これに加えて出願者の志望する領域における知識を問う。
- 3) 外国語（英語）試験
読解力の試験を課す。英和辞典のみ持ち込み可。その他の辞典や、電子辞書等は認めない。また貸出も行わない。

4) 西洋音楽史

西洋音楽史における諸側面・諸問題について問う。

5) 音楽学を研究領域とし、研究に実演を伴う場合、上記の試験以外に、演奏技能が研究の遂行に資するか否かを判定する「演奏技能適性検査」を実施する。

実技課題は、別添「演奏技能適性検査課題」を参照してください。

⑦ 専門試験実技課題及び演奏技能適性検査

別添を参照のこと。

⑧ 受験上の諸注意について

1) 試験当日は午前 8 時 30 分に開門します。試験室（控室）へは、試験開始 30 分前から入室可能です。試験室等については、当日掲示で指示します。案内に従って入室してください。また試験室では、受験番号と同じ番号の席に着席してください。

2) 試験開始後、20 分以上の遅刻者は当該科目を受験することができません。

3) 遅刻した場合は、入試課に申し出て指示を受けてください。

4) 受験の際、試験監督者または試験係員の指示に従ってください。

5) 受験票を忘れたり紛失された場合は、直ちに入試課に申し出て、再発行の手続きを取ってください。

6) 受験した科目は各科目の試験終了時間まで、退出することができません。

7) 指定の科目を 1 つでも受験しなかった場合は、全試験を放棄したものとみなします。

8) 当日必ず持参するものは、受験票、筆記用具（黒鉛筆、消しゴム）、時計です。上履きは必要ありません。

※ 筆記用具・時計の貸し出しはできません。

9) 試験時に机の上に置けるものは、受験票、鉛筆、消しゴム、時計（計算機能・英語・国語辞典の機能のついたものは不可）、眼鏡のみです。スマートフォン、携帯電話等の電源は入室の際に切っておいてください。

10) 不正行為をしたと認められた者は、合否判定から除外します。

11) 試験時間中、受験生以外は教室棟への立ち入りはできません。付き添いの方は、保護者控室でお待ち願います。

12) 試験日前日の学内の見学（下見）は可能ですが、試験室への入室はできません。

13) 自家用車・タクシーでの学内への乗り入れは、ご遠慮願います。

14) 当日の服装については、特に指定はありません。

⑨ 合否発表

前期：2017 年 10 月 27 日（金） 後期：2018 年 3 月 10 日（土）

※合否結果は、合否発表日に速達郵便で通知します。なお合格者には、入学手続書類を同封いたしますので、期日までに手続きを完了してください。

3. 出願手続

① 出願期間

種別	検定料銀行 取扱開始日	出願受付期間 (〆切日消印有効)
前期選抜試験	2017年10月2日(月)～	10月3日(火)～10月10日(火)
後期選抜試験	2018年2月9日(金)～	2月13日(火)～2月19日(月)

② 入学検定料の納入方法

入学検定料 35,000 円

所定の振込用紙により郵便局以外の金融機関の窓口から振り込んでください。

なお、現金自動支払機(ATM)による振り込みは受け付けません。

③ 出願書類

- 入学願書 (A 票)
 - 写真票 (B 票) : 2 枚
 - 受験票 (C 票)
 - 受験曲目記入票 (D 票)
 - 研究計画書 (E 票) ※1
 - 履歴書 (F 票) ※2
 - 成績証明書: 出身大学発行
 - 卒業(見込)証明書: 出身大学発行 又は出願資格の該当者であることを証明できる書類*
- * 詳細は入試課へお問い合わせください
- 入学検定料払込通知書: 大学院提出用(入学願書の裏面に貼付)
 - 受験票返送用封筒: 362 円分の切手貼付/受取住所、氏名等明記のこと
 - 可否通知送付用封筒: 530 円の切手貼付/受取住所、氏名等明記のこと

※1 研究計画書

入学後、本学の研究科で行う研究のテーマ及び研究の概要(研究目的・研究方法・展望など)について記入してください(音楽学領域で実演を伴う研究を行う場合は、必ずその必要性について記述してください)。

※2 履歴書(下記項目について、可能な範囲で記入してください)

- 1) 学歴(高等学校卒業から記入)
- 2) 職歴(ない場合は「なし」と記入)
- 3) 音楽学習歴(師事した教員名、指導を受けた科目名や楽器名、受賞歴など)

④ 出願先

〒559-0033 大阪市住之江区南港中4丁目4-1

相愛大学 入試課(宛)

⑤ その他

- ・すべての提出書類のうち、外国語で書かれた証明書、文書等がある場合は、必ず邦訳を付してください。
- ・一旦提出された書類、検定料は、理由の如何に係わらず返還いたしません。
- ・身体に障がいがあり、受験に際して特別な配慮を必要とする場合は、出願前に入試課に申し出てください。
- ・提出書類に記入いただいた内容は、個人情報保護法に基づき、入試業務の目的以外には使用いたしません。

4. 入学手続締切日及び学費・諸経費

① 学費・諸経費

		入学金	授業料	施設費	合計	年額
入学年次	前期	200,000 (100,000)	480,000	215,000	895,000 (795,000)	1,590,000 (1,490,000)
	後期	—	480,000	215,000	695,000	
2年次	前期	—	480,000	215,000	695,000	1,390,000
	後期	—	480,000	215,000	695,000	

注 1) 上記の他に、学生会費等諸費が必要です。

注 2) 相愛大学の卒業生が入学する場合は、入学金は半額となります。()内金額。

注 3) 上記の他に、手数料、学外実習等の費用を別途徴収することがあります。

注 4) 既納の入学金、授業料その他の費用は、いかなる事情があっても返還しません。

但し、入学手続を完了した者が、2018年3月30日(金)12:00までに本学所定の「入学辞退届」を入試課に提出した場合に限り、入学金を除く既納の授業料等を返還します。

② 入学手続締切日

入学を許可された者は、下記期日を厳守してください。なお合格者には入学手続き書類を同封いたしますので、期日までに手続きを完了してください。

種別	可否発表	入学金 納付期限	前期授業料 納付期限
前期選抜試験	2017年10月27日(金)	11月6日(月)	12月20日(水)
後期選抜試験	2018年3月10日(土)	3月29日(木)	3月29日(木)

③ 個人成績の開示について

本学では 2018（平成 30）年度入試に関する個人成績について、次の方法により開示を行います。

1) 申請できる対象者

2018（平成 30）年度入試の受験生本人に限ります（個人情報保護法の観点から、代理人申請は認めません）。

2) 開示対象

2018（平成 30）年度の本学独自の入学試験が対象となります。

3) 開示内容

判定に使用した、受験生本人の科目別得点および総合点を開示します。

4) 申請受付期間

2018 年 5 月 1 日（火）～2018 年 5 月 15 日（火） [消印有効]

5) 申請・請求方法

申請の際には、申請する入試の受験票または合格通知が必要となります。その他必要な書類等については、入試課までお問い合わせください。

④ サンプル問題の提供について

受験の参考に「外国語（英語）試験」と「西洋音楽史」のサンプル問題を提供します。入手方法は以下の通りです。

1) 窓口で入手する

相愛大学 入試課（10：00～16：00）

TEL：06-6612-5905（ダイヤルイン）詳細は電話でお問い合わせください。

2) 郵送で入手する

封筒の表に『大学院サンプル問題請求』と朱書きし、裏に請求者の郵便番号、住所、氏名を記入の上、返信用切手を貼付した返信用封筒を同封して下記宛先へ請求してください。

【宛先】

〒559-0033 大阪市住之江区南港中 4 丁目 4-1

相愛大学 入試課（宛）

【返信用封筒について】

角 2 号（33.2cm×24cm）の封筒の表に請求者の郵便番号、住所、氏名を記入し、420 円分の切手を貼付けてください。

*受付期間：2017 年 8 月 21 日（月）～2018 年 2 月 19 日（月）

なお土・日・祝は除く

5. カリキュラムについて

① カリキュラム

[大学院音楽研究科音楽専攻]

科目 区分	授業科目の名称	単位数			年 次	形 態	期 間	履修条件	
		必 修	選 択	自 由					
共通 科目	西洋芸術音楽総合演習Ⅰ	1			1		半期	[2単位以上]	
	西洋芸術音楽総合演習Ⅱ	1			1		半期		
専 門 科 目	専門特論科目	現代音楽特論		2		1	講義	半期	声乐・鍵盤・器楽・作曲の 領域を履修する者は、 [16単位以上] 音楽学の領域を履修する者 は、 [20単位以上]
		スコア・リーディング		2		1	講義	半期	
		楽書講読 A		2		1	講義	半期	
		楽書講読 B		2		1	講義	半期	
		音楽によるアウトリーチ A		2		1	講義	半期	
		音楽によるアウトリーチ B		2		2	講義	半期	
		音楽療法特論A		2		1	講義	半期	
		音楽療法特論 B		2		1	講義	半期	
	専門演習科目	オペラ特別演習Ⅰ		2		1	演習	通年	
		オペラ特別演習Ⅱ		2		2	演習	通年	
		オーケストラ特別演習Ⅰ		2		1	演習	通年	
		オーケストラ特別演習Ⅱ		2		2	演習	通年	
		室内楽特別演習Ⅰ		2		1	演習	通年	
		室内楽特別演習Ⅱ		2		2	演習	通年	
		演奏理論特別演習Ⅰ		2		1	演習	通年	
		演奏理論特別演習Ⅱ		2		2	演習	通年	
		作品分析特別演習Ⅰ		4		1	演習	通年	
		作品分析特別演習Ⅱ		4		2	演習	通年	
		西洋音楽史特別演習 A		4		1	演習	通年	
		西洋音楽史特別演習 B		4		2	演習	通年	
専門研究科目	副科特別実技Ⅰ		2		1	実技	通年		
	副科特別実技Ⅱ		2		2	実技	通年		
	声乐専門実技Ⅰ		4		1	実技	通年		
	声乐専門実技Ⅱ		4		2	実技	通年		
	鍵盤専門実技Ⅰ		4		1	実技	通年		
	鍵盤専門実技Ⅱ		4		2	実技	通年		
	器楽専門実技Ⅰ		4		1	実技	通年		
	器楽専門実技Ⅱ		4		2	実技	通年		
	作曲専門実技Ⅰ		4		1	実技	通年		
	作曲専門実技Ⅱ		4		2	実技	通年		
	音楽学研究演習Ⅰ		4		1	演習	通年		
	音楽学研究演習Ⅱ		4		2	演習	通年		
作品研究報告書制作 (研究指導)	-	-	-	1~2	演習	通年			

② 修了要件及び履修方法等

[修了要件]

本学大学院に2年以上在学し、所定の授業科目30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究の成果の審査及び試験に合格すること。なお、各領域の研究の成果の審査及び試験は以下の通りとする。

(ア) 声楽、鍵盤、器楽の領域を履修する者は、修士演奏の審査に合格した後、演奏曲についての口述による試験に合格すること。

(イ) 作曲の領域を履修する者は、修士作品の審査に合格した後、発表した作品についての口述による試験に合格すること。

(ウ) 音楽学の領域を履修する者は、修士論文の審査に合格した後、修士論文に関係のある分野についての口述または筆記試験に合格すること。

[履修方法]

(ア) 必修科目として、『共通科目』の「西洋芸術音楽総合演習Ⅰ」「西洋芸術音楽総合演習Ⅱ」、及び『専門研究科目』より各学生が履修する領域の「実技Ⅰ」「実技Ⅱ」又は「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」（カリキュラム表記載上は選択必修科目）の計10単位を履修する。

(イ) 声楽、鍵盤、器楽、作曲の領域を履修する者は、演奏又は発表する作品についての研究報告を取り纏めるため、選択必修科目として、『専門研究科目』の「作品研究報告書制作」の4単位を履修する。音楽学領域を履修する者で研究に実演を伴う場合は、「副科特別実技Ⅰ」「副科特別実技Ⅱ」の4単位を履修する。

(ウ) その他、各学生のキャリアプラン等を考慮して、『専門科目』（「専門特論科目」群、「専門演習科目」群）から、声楽、鍵盤、器楽、作曲の領域を履修する者は16単位以上、音楽学領域を研究する者は20単位以上（研究に実演を伴う場合は16単位以上）を履修する。

③ 履修モデル

(1) 演奏家（声楽領域を履修する学生の履修例）

30単位履修

		1年次	2年次
共通科目		(前期) 西洋芸術音楽総合演習Ⅰ	
		(後期) 西洋芸術音楽総合演習Ⅱ	
専 門 科 目	専門特論科目	(前期) 現代音楽特論	(前期) 楽書講読A
		(後期) スコア・リーディング	(後期) 楽書講読B
	専門演習科目	(通年) オペラ特別演習Ⅰ	(通年) オペラ特別演習Ⅱ
		(通年) 演奏理論特別演習Ⅰ	(通年) 演奏理論特別演習Ⅱ
専門研究科目		(通年) 声楽専門実技Ⅰ	(通年) 声楽専門実技Ⅱ
			(通年) 作品研究報告書制作
		(研究指導) 1~2年次を通して研究指導教員から研究指導をうけ、その成果である「修士演奏」を披露する。	

(2) ホール等の運営・企画会社（鍵盤領域を履修する学生の履修例）

30 単位履修

		1 年次	2 年次
共通科目		(前期) 西洋芸術音楽総合演習 I	
		(後期) 西洋芸術音楽総合演習 II	
専 門 科 目	専門特論科目	(前期) 現代音楽特論	(前期) 音楽によるアウトリーチ B
		(後期) 音楽によるアウトリーチ A	(後期) 音楽療法特論 B
	専門演習科目	(通年) 室内楽特別演習 I	(通年) 室内楽特別演習 II
		(通年) 演奏理論特別演習 I	(通年) 演奏理論特別演習 II
専門研究科目		(通年) 鍵盤専門実技 I	(通年) 鍵盤専門実技 II
			(通年) 作品研究報告書制作
		(研究指導) 1～2 年次を通して研究指導教員から研究指導をうけ、その成果である「修士演奏」を披露する。	

(3) 芸術文化等研究機関（音楽学領域を履修する学生の履修例）

30 単位履修

		1 年次	2 年次
共通科目		(前期) 西洋芸術音楽総合研究 I	
		(後期) 西洋芸術音楽総合研究 II	
専 門 科 目	専門特論科目	(前期) 楽書講読 A	(前期) 現代音楽特論
		(後期) 楽書講読 B	(後期) 音楽療法特論 B
	演奏特別演習	(通年) 西洋音楽史特別演習 A	(通年) 西洋音楽史特別演習 B
		(通年) 副科特別実技 I	(通年) 副科特別実技 II
専門研究科目		(通年) 音楽学研究演習 I	(通年) 音楽学研究演習 II
		(研究指導) 1～2 年次を通して研究指導教員から研究指導をうけ、その成果である「修士論文」を制作する。	

6. 音楽研究科 音楽専攻 修士課程 指導教員

領域／クラス	氏名
声楽	泉 貴子、米田 哲二、井岡 潤子、片桐 直樹、木澤 佐江子、 児玉 祐子、畑田 弘美、馬場 清孝、福田 清美、松原 友
鍵盤	稲垣 聡、山本 英二、井上 麻紀、練木 繁夫、大谷 正和、岡本 麻子、 北川 恵美、小坂 圭太、坂本 恵子、佐野 えり子、塩見 亮、 釈迦郡 洋介、田尻 洋一、中川 知保、長谷川 美穂子、服部 久美子、 星 裕子、彌園 友子、宮下 直子、宮本 聖子、山口 博明
器楽／管楽器	清水 信貴、前田 昌宏、飯塚 一郎、ケネス・チェ、アンドレ・アンリ、 竹林 秀憲、岩田 瑞和子、早坂 宏明
器楽／弦楽器	小栗 まち絵、田辺 良子、斎藤 建寛、大谷 玲子、漆原 啓子、 岸邊 百百雄、今井 信子、堤 剛、マウロ・イウラート、五十嵐 由紀子、 池川 章子、佐藤 一紀、曾我部 千恵子、田渕 洋子、森田 玲子、 小峰 航一、竹内 晴夫、秋津 智承、花崎 薫
器楽／打楽器	中谷 満、吉原 すみれ、堀内 吉昌、宮本 妥子
作曲	松本 直祐樹、湯浅 譲二、檜垣 智也、山根 明季子、若林 千春
音楽学	黒坂 俊昭、大谷 紀美子
その他の専門 科目担当者 (指揮者)	尾高 忠明、円光寺 雅彦、梅田 俊明、小林 恵子
その他の専門 科目担当者 (実技)	杉山 康人、吉田 秀、井岡 潤子、木澤 佐江子、畑田 弘美、 馬場 清孝、福田 清美、松原 友、清水 明、中根 庸介、鈴木 豊人、 首藤 元、向井 和久、岡本 哲、三宅 孝典、吉野 竜城、川浪 浩一、 林 俊武、幣 隆太郎
その他の専門 科目担当者 (講義・演習)	石村 真紀、松谷 葉子、中村 滋延、有馬 純寿、石原 興子

7. お問い合わせ

相愛大学 入試課 (〒559-0033 大阪市住之江区南港中4丁目4-1)

☎ (06)6612-5905 ☉ nyuushi@soai.ac.jp URL : <http://www.soai.ac.jp/>

